

Department of pharmacy

DI NEWS

vol.29
No.4

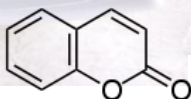


2020 Apr.

DATA:

- 名 称：桜（サクラ）
- 学 名：Cerasus
- 分 類：バラ科モモ亜科スモモ属
- 薬 品：桜皮エキス（樹皮）
- 効 能：鎮咳去痰薬
（サクラ餅は3月ですけどね…）

さくら餅：香梅HPより引用
桜皮：東京生薬協会HPより引用



今月の表紙：サクラ（桜）

今年は諸般の事情でDIニュース表紙は「季節モノ」で12月まで通す予定ですが、4月は桜ですかね。今年には新型コロナのおかげで、花見も自粛。そんなわけで、この記事でも「桜の花」は自粛。葉と皮の話。桜の葉と言えは桜餅。葉っぱの塩漬けが少し香るのを楽しむわけですが、香りの元となる物質は、クマリン系物質。構造式を桜餅の画像に添えてみました。クマリン系と言えは、医薬品ではワルファリンですが、桜葉に、ヒトの血液に影響を及ぼすほどの量は含まれていませんので、ご心配なく。

クマリン酸は生きた葉では、細胞内に閉じ込められているので香りもありません。落葉するなど葉の細胞が破壊された後にクマリン酸→クマリンとなります。クマリンは、地中に浸透し、他の植物の成長を阻害するので、雑草や他の植物が生えにくくなり、サクラは生存競争に勝てるわけですね。なので、あのほんのり香る物質は、なかなか、したたかな物質です。

ちなみに食用桜葉は、オオシマザクラの葉が用いられるようです。

さて、桜皮（オウヒ）。こちらはヤマザクラかカスミザクラの指定のようで、日本独自の薬として使われてきました。咳嗽、皮膚炎などに使ったり、少し前まではプロチンコデイン液の成分として咳止めに使っていましたね。桜皮の入手困難で買えなくなりました。

和漢薬では、華岡青洲によって考案された十味敗毒湯の成分。十味敗毒湯は「癰・疽および諸々の瘡腫で、悪寒・発熱・疼痛するものを治す」とされます。青洲は、通仙散での経口全身麻酔で、世界初の乳癌摘出手術に成功したのが有名ですね。（文化元年・1804年）通仙散や十味敗毒湯は、日本の歴史的薬剤です。



©東京生薬協会

CONTENT

Page2

2020.3 No.287

DRUG SAFETY UPDATE

医薬品安全対策情報

- ・ニュープロパッチ
- ・アロプリノール
- ・トリセノックス
- ・スンベプラ、エレルサ、グラジナ、マヴィレット、ソバルディ、他

Page3

- ・コロナのデマ

Page4

- ・新型コロナに関する中国のガイドラインから


重要

速やかに改訂添付文書を作成します

**ニュープロパッチ
ロチゴチン**
**116 抗パーキンソン剤
119 その他の中枢神経系用薬**

改訂箇所	改訂内容
[重大な副作用] 追記	<u>横紋筋融解症:</u> 筋肉痛、脱力感、CK(CPK)上昇、血中及び尿中ミオグロビン上昇を特徴とする横紋筋融解症があらわれることがあるので、異常が認められた場合には投与を中止し、適切な処置を行うこと。また、横紋筋融解症による急性腎障害の発症に注意すること。

アロプリノール
394 痛風治療剤

改訂箇所	改訂内容
[11.1 重大な副作用] 追記	<u>11.1.9 無菌性髄膜炎</u> 項部硬直、発熱、頭痛、悪心・嘔吐又は意識障害等の症状を伴う無菌性髄膜炎があらわれることがある。なお、本剤投与後数時間で発症した例も報告されている。

**トリセノックス注
三酸化ニヒ素**
429 その他の腫瘍用薬

改訂箇所	改訂内容
[重大な副作用] 追記	<u>ウェルニッケ脳症:</u> ウェルニッケ脳症があらわれることがあるので、観察を十分に行い、意識障害、運動失調、眼球運動障害等の症状が認められた場合には、ビタミンB ₁₂ の測定、MRIによる画像診断等を行うとともに、ビタミンB ₁₂ の投与、本剤の中止等の適切な処置を行うこと。

**スンペラカプセル、エレルサ錠、グラジナ錠、
マヴィレット配合錠、ソバルディ錠、エブクルーサ配合錠
ダクルインザ錠、ジメンシー配合錠、ハーボニー配合錠
アスナプレビル、エルバスビル、グラソプレビル
グレカプレビル水和物・ピブレンタスビル、ソホスビルと配合錠
ダクラタスビルと配合錠**
625 抗ウイルス剤

改訂箇所	改訂内容
[重要な基本的注意] 追記	<u>C型肝炎直接型抗ウイルス薬を投与開始後、ワルファリンやタクロリムスの増量、低血糖によりインスリン等の糖尿病治療薬の減量が必要となった症例が報告されており、本剤による抗ウイルス治療に伴い、使用中の併用薬の用量調節が必要になる可能性がある。特にワルファリン、タクロリムス等の肝臓で代謝される治療域の狭い薬剤や糖尿病治療薬を使用している患者に本剤を開始する場合には、原則、処方医に連絡するとともに、PTINRや血中薬物濃度、血糖値のモニタリングを頻回に行うなど患者の状態を十分に観察すること。</u>

**ネイリンカプセル
ホスラブコナゾールL-リシンエタノール付加物**
629 その他の化学療法剤

改訂箇所	改訂内容
[重大な副作用] 追記	<u>多形紅斑:</u> 多形紅斑があらわれることがあるので、観察を十分に行い、異常が認められた場合には投与を中止するなど、適切な処置を行うこと。



たぶん、治療経験としては中国が多いと思いますので、コロナウイルスの治療ガイドラインも覗いてみるのですが、現時点で新しいのは、第七版(3/3付)。

新型冠状病毒肺炎诊疗方案 (试行第七版)

http://www.gov.cn/zhengce/zhengceku/2020-03/04/content_5486705.htm

これを見ると、いろいろ使ってますね。

- α-干扰素(成人每次500万u或相当剂量)→インターフェロンですね。
 - 洛匹那韋 / 利托那韋(成人200mg/50mg/粒、每次2粒、毎日2次、疗程不超10天)は、ロピナビル/リトナビルでしょうね。1回2粒、1日2回、10日を超えない、で合ってるかな？
- 以下、利巴韋林(リバビリン)や、磷酸氯喹(リン酸クロロキン)、阿比多尔(Arbidol:抗インフルエンザ)と記述は続きますが、日本で騒いでる「アビガン」は、「治療」の項には無いですね。
- 抗菌薬は、「避免盲目或不恰当使用抗菌药物」とあるので、むやみに使うなという意味かな。
- 以下、重症者に対しては、ECMOを使う治療や血液浄化治療等の記述が並んでいます。

(四)の項で、中医治療の記述がありました。漢方ですね。2.の臨床治療期の最初の記述は、清肺排毒湯でした。ちょっと見たことがない名前ですね。その記述を私が勝手に日本語的に直すと(中国の漢字が読みにくいので、合っていないかもですが、大意はズレてないと思う)

活用範囲: 軽症型、普通型、重症、危重篤の患者の状況に合わせて使用。

基本方剂: 麻黄 9g 炙甘草 6g 杏仁 9g 生石膏 15~30g(先煎) 桂枝 9g 沢瀉 9g 猪苓 9g 白朮 9g 茯苓 15g 柴胡 16g 黄芩 6g 姜半夏 9g 生姜 9g 紫苑 9g 冬花 9g 射干 9g 細辛 6g 山薬 12g 枳実 6g 陳皮 6g 藿香 9g

こりゃ、たくさんの生薬配合で、ちょっとビックリしています。

清肺排毒湯について調べていたら、WEB上で、金沢大学附属病院漢方医学科の小川恵子先生の特別寄稿という文書に行き当たりましたので、そちらから以下に引用したいと思います。

http://www.kansensho.or.jp/uploads/files/news/gakkai/covid19_kanpou_0319.pdf

「清肺排毒湯は、漢代の張仲景が著した『傷寒雑病論』にある、寒湿邪によって引き起こされる外感熱病=感染症に対する処方である、麻杏甘石湯、射干麻黄湯、小柴胡湯、五苓散を組み合わせたものが基本とされています。清肺排毒湯は、日本のエキス製剤にはありませんが、エキス製剤を組み合わせると同様なものを作ることができます。

麻杏甘石湯+胃苓湯+小柴胡湯加桔梗石膏 左3剤を一緒に服用



この他、軽症型で胃腸の不調なら、藿香正気散(かっこうしょうきさん)。日本なら香蘇散+平胃散(左2剤を一緒に服用)で代用とか、発熱型なら、黄連解毒湯、もしくは清上防風湯、もしくは荊芥連翹湯、もしくはこれらの組み合わせで代用などの記述になってます。

悪寒があるなら葛根湯もしくは麻黄湯、高齢者や倦怠感が強い患者は麻黄附子細辛湯。

さて、西洋薬で言えば、フランスでは、「コロナに罹ったらイブプロフェンは飲むな、アセトアミノフェンを使え」と呼びかけてましたが、解熱消炎鎮痛剤は、昔から、風邪等の罹患期間を伸ばす(治りが悪くなる)記述はよく見ますが、新型コロナでは、用心したほうが良いですね。